

(一社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 45 回 LLW埋設後管理分科会 議事録

1. 日時 2023 年 7 月 19 日 (水) 10:00～11:30
2. 場所 Webex による WEB 会議
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 河西 (主査), 山本 (正) (副主査), 関口 (幹事), 千々松, 梅原, 大石, 後藤, 小峯, 鈴木, 高崎, 長峰, 三木, 山本(修) (13 名)
(代理出席委員) 天澤 (仲田代理), 山田 (辻家代理) (2 名)
(出席常時参加者) 山岡, 大畑 (2 名)
(欠席委員) 徳永, 宮脇, 久田 (3 名)
(欠席常時参加者) 斎藤 (1 名)
(オブザーバー) 中島 (1 名)
4. 配布資料
F14SC45-0 議事次第
F14SC45-1 人事について
F14SC45-2 第 44 回 LLW 埋設後管理分科会議事録(案)
F14SC45-3 制定決議までの経緯
F14SC45-4 制定後の修正箇所 (改定前後比較表)
F14SC45-5 今後のスケジュール
F14SC45-6 倫理教育ご意見・質問、感想
F14SC45 参考 1 埋設後標準改定案 (試し刷り)
F14SC45 参考 2 標準の今後の改廃の進め方
F14SC45 参考 3 用語辞典_TR014_2023
5. 議事及び確認事項
 - (1)出席者／資料確認
関口幹事より, 委員総数 18 名中代理を含め 15 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨の報告があった。続いて配布資料の確認が行われた。
 - (2)人事について
関口幹事から, 資料- F14SC44-02 を用いて, 人事の説明があった。委員人事 (選任: 中島委員) は, 承認された。また, 委員の退任 (白石委員) が報告された。
 - (3)前回議事録の確認
関口幹事から, 資料- F14SC45-2 を用いて, 前回 (第 44 回) 議事録(案)の確認が行われ, コメントはなく正式議事録とすることとなった。

(4)埋設後管理標準の制定決議までの経緯

千々松委員から資料-F14SC45-3 を用いて制定決議までの経緯について説明があり、特に質疑はなかった。

(5)埋設後管理標準の制定後の修正箇所

千々松委員から資料-F14SC45-4 を用いて制定後の修正箇所について説明があり、以下の質疑が行われた。

- ・ “ほか” という部分は、3 標準（埋設後管理標準，安全評価標準，施設検査標準）での調整によっては今日の資料にある箇所以外にも変更になる可能性があるということか。（河西主査）
 - ⇒21 日に 3 標準で調整して決定後に修正するので，本日の資料から変更になる可能性がある。（千々松委員）
 - ⇒修正後に，専門部会にかけることになる標準一式を再度周知するという事によいか。（河西主査）
 - ⇒手続き的には，今回は制定決議後の修正になるので専門部会と標準委員会での承認が必要となる。分科会では承認が必要とはならないが，分科会での審議は必要なので，専門部会前に周知をすることにする。（関口幹事）
- ・ この辺りの “ほか” の記載は学会事務局の気づき事項では “この標準では、「他の」の表記が約 20 か所あります。「JIS 手引きによる」では、「ほかの」との表記を推奨しています。”とされていたが，それは明らかに誤り。その後，学会事務局から JIS（JIS Z8301 の附属書 H に規定）に従うとのコメントがあったが，同附属書 H は，漢字の使用に関しては，“常用漢字表（平成 22.11.30 内閣告示第 2 号）”及び “公用文における漢字使用等について（平成 22.11.30 内閣訓令第一号）”を参照しているので，それらの規定するところから従うべき。そこでは “ほか” を平仮名で書く用例が挙げられているがそれ以外は漢字で示すということにすべきでは。（山本副主査）
 - ⇒山本副主査は専門部会での委員でもあるので，専門部会での議論になった際には補足等をお願いしたい。（河西主査）
 - ⇒拝承。（山本副主査）
- ・ 今回ご指摘いただいた箇所を修正しているので，埋設後管理標準はこれでよいということで，これに合わせて施設検査標準と安全評価標準を修正すれば統一がとれるということによいか。（千々松委員）
 - ⇒そのとおり。（山本副主査）
 - ⇒3 分科会での打合せ時には，埋設後管理標準での修正の考え方をご説明いただきたい。（河西主査）
- ・ 資料の氏名に誤記があるので修正していただきたい（後藤 孝裕⇒後藤 考裕）。（後藤委員）
 - ⇒資料を確認したところ，改定前後比較表のみ誤っていて，標準改定案は正しい記載になっていた。改定前後比較表を修正する。（千々松委員）

(6)今後のスケジュールについて

関口幹事から資料-F14SC45-5, F14SC45 参考 2 及び F14SC45 参考 3 を用いて今後のスケジュールについて説明があり，以下の質疑が行われた。

- ・以前、今後の改定について電事連で標準ごとに重み付けをしているというような話が出ていたが、分科会としてはどのようなスタンスになるのか。（河西主査）
 - ⇒標準委員会の検討タスクでは、個別の改廃については議論せず5か年計画の更新ガイドラインの改定に留めて、柔軟な運用ができるようにした。個別の標準の取扱については、タスクではなく分科会で議論をするということになる。電事連が標準のユーザーになるので、電事連の希望もヒアリングする必要はあるが、分科会としての案として専門部会等へ示すことになる。施設検査分科会も同じような状況のため、合同で議論するという方向になっている。（関口幹事）
- ・図書の発行についてはいつ頃になりそうか。（河西主査）
 - ⇒試し刷りまではできているが、修正が入るので修正が9月の標準委員会で認められてからその先へ進むことになる。（関口幹事）
 - ⇒12月の講習会や3月の年会では、標準が発行されていることは必須か。（河西主査）
 - ⇒施設検査標準に関連して学会事務局に以前問い合わせたところ、発行承認後に手続きが順調であれば1か月弱で発行される、また標準の発行前に講習会を行うことはない、と聞いた。（山田委員代理）
 - ⇒現状の工程では問題なさそうだが、解説などに2023年と記載している箇所があり、2023年中に発行されないとその箇所は修正しないといけないのでその辺りは注意が必要。（千々松委員）
- ・用語辞典への追加について期限はあるのか。（河西主査）
 - ⇒この手続きについては標準委員会で幹事業務等マニュアルを改定しているところで、今後は標準の制定までに分科会から用語辞典への掲載項目の提案をするというルールになる。この標準は既に発行承認を受けているのでそれとは別に、用語辞典の改定は毎年行われているのでそれに合わせて年内頃を目途に対応すると想定している。（関口幹事）
 - ⇒この用語辞典の話はどのような経緯で出てきているものか。用語辞典WGの委員であるが、そのような話はまだこちらには来ていないがどこからの話か。（山本副主査）
 - ⇒6月の標準委員会で資料説明等があった。分科会から用語の修正を提案するという形になる。（関口幹事）
 - ⇒今回のように類似の3標準があった場合にバラバラで提案されると困ることになるのでは。そのような場合はどう対応するのか。（山本副主査）
 - ⇒3標準で、注釈への記載は変えているが、定義の記載自体は統一しているはず。（千々松委員）
 - ⇒ただ、更新方法のルール次第ではその辺りも影響するのではと懸念している。仮に同じ用語で定義が違うものが出てきた時は、用語辞典WGで調整することになると想定する。（山本副主査）
- ・次回分科会は、安全評価標準では既に10月の日程を調整している。各委員の出席率を向上させるためにも、早めに調整すべきではないか。（山本副主査）
 - ⇒日程調整でヒアリングした際には、早く決めても後から入ってくるということもあるので中々難しいとのことであった。（関口幹事）
 - ⇒それでも、遅くなるとそもそも埋まっているということになるので、早い方がよいのでは。他の組織などでは“調整さん”などのツールを用いて日程調整をしている

- 例があるので、そのような方法も含めて検討すべきでは。(山本副主査)
- ⇒標準委員会や専門部会と異なり、定期的な開催が必ずしも決まっていないということもあるので、その辺りも考慮して検討いただきたい。(河西主査)
- ⇒今回に関しては、標準委員会とリンクして10月に開催することになるので、仮予約という形で日程を確保しておくということもできる。(関口幹事)
- ⇒今回、時期がおおよそ決まっているということなので、早めに日程を調整するということでしょうか。(河西主査)
- ⇒ツールを用いて調整するということも検討いただきたい。(山本副主査)
- ⇒他の原子力学会の委員会の日程も10月のものが既に決まっているものもあるので、7月中に決めてしまっはどうか。(千々松委員)
- ⇒拝承。(関口幹事)

(7)倫理教育について

関口幹事より資料・F14SC45-6を用いて倫理教育の結果について説明があり、特に質疑はなかった。

(8)今後の予定

- ・次回分科会は、早い段階でスケジュール調整するように対応する。

以上